



# HARA MUSEUM ARC

## <展覧会> この、原美術館 ARC という時間芸術

第1期:2025年3月15日(土)—5月11日(日) 第2期:5月16日(金)—7月6日(日)

## <特別企画> ジャネット カーディフ:40 声のモテット

2025年3月15日(土)—5月11日(日)

### ◆展覧会の見どころ

1. 特別企画として、ジャネット カーディフの初期代表作「40 声のモテット」を、磯崎新設計の原美術館 ARC ギャラリーA に展示。人工照明を用いず、天窓からの自然光の下でのサウンドインスタレーション体験
2. 原美術館コレクションから、2024 年高松宮殿下記念世界文化賞を受賞したソフィ カルの「限局性激痛」を展示
3. 展示室のみならず、屋外作品や自然環境を含めた原美術館 ARC 全体を詩や音楽のような時間芸術として鑑賞



原美術館 ARC と榛名山麓

### 原美術館 ARC は時間芸術\*なのではないか？

春には花びらが舞い、鳥がさえずり、初夏には草木が萌え、風が坂をわたり、盛夏には山から雲が沸き、夕立の後には東の空に虹がかかり、西には雲間から陽光のはしごが下りる。移ろう自然の中で翼を広げる磯崎新建築の端正さに心動き、天窓からの自然光の下で個性あふれる作品と出会い、回廊では黙々と草を食む羊の群れを遠くに眺め、屋外に出てはシロツメクサの咲く庭に点在する宮脇愛子の「うつろひ」や多田美波の「明暗」に環境とともにある作品のあり方を観る——ここにあるひとつひとつの要素がここにいる時間とともに緩やかに繋がってゆく原美術館 ARC という美術館は、それ自体が詩のような、音楽のような芸術、つまり時間芸術なのではないかと思うのです。

2025 年春、原美術館 ARC におきまして、「この、原美術館 ARC という時間芸術」展を開催いたします。会期序盤には、特別企画としてジャネット カーディフによるサウンドインスタレーション「40 声のモテット」をギャラリーA にて期間限定で展示いたします(5月11日まで)。トマス タリス(16世紀イングランド王国の作曲家、王室礼拝堂オルガン奏者)作の40声の楽曲を再構成した本作は、2001年の発表以来、世界各地で展示されているカーディフの初期代表作です。楕円形に立ち並ぶ40台のスピーカーの一台一台から一人一人の声が聞こえ、徐々に声が重なり合い、やがて40人が今ここで歌声を響かせ合っているかのような臨場感のある場へと変化してゆきます。言葉にすれば数行ながら、音が構築する彫刻的空間の体験は圧倒的であり、アートが言葉ではすくいきれないものであることを実感します。



# HARA MUSEUM ARC

磯崎新が設計したギャラリーAは、杉柱4本に支えられた高さ12mの天窗から自然光が降り注ぎ、太陽の面を雲が横切る度に光が移ろう展示室です。現代美術作品に適したホワイトキューブの特徴を備えながらも自然の息遣いを感じられます。「間」という日本的な時間・空間の美意識を論じた磯崎が設計したこの空間と「40声のモテット」との出会いをどうぞお楽しみください。\*時間芸術とは、時間の推移とともに表現・享受される芸術のこと。主に音楽や文学のことを指す。



【図1】 ジャネット カーディフ「40声のモテット」2001年 聖ヨハネ教会(オーストリア、フェルトキルヒ)での展示風景(2005年)  
Photo by Markus Tretter. Courtesy of the artist and Luhring Augustine, New York / Fraenkel Gallery, San Francisco / Gallery Koyanagi

一方、ギャラリーBとCには当館の収蔵作品からソフィ カルによる「限局性激痛」を展示いたします。カルの“人生最悪の日”までのカウントダウンと、自身の心の痛みを他人の苦痛と交換することで徐々に痛みが薄れてゆく過程を観る／読むことで、カルのみならず鑑賞する我々の感情にも変化が生じてゆきます。

なお、5月16日からのギャラリーAには、李禹煥が当館での個展(1991年)用に制作した大作の三連画「風と共に」や山本紉の「落下する水」シリーズなど、制作にも鑑賞にも時間の流れを伴う作品群を収蔵作品から選びます。ここにしかない、原美術館 ARC という時間芸術を存分にご堪能ください。

◆特別企画:「ジャネット カーディフ:40声のモテット」2001年 \*別添の専用リリースもご参照ください。  
展示室:ギャラリーA 展示期間:2025年3月15日(土)–5月11日(日)

トマス タリス(1505頃–1585、イングランド王国の作曲家・王室礼拝堂オルガン奏者)作曲の多声楽曲、「40声のモテット」(Spem in Alium)を歌う40人の声が楕円形に配された40台のスピーカーから個別に再生されるサウンドインスタレーション。5声(ソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス)からなる8つの合唱団の音声(40人分)を録音し、構成されている。

## ジャネット カーディフの言葉——

コンサートでは、たいていの場合、観客は合唱団の前に座っている。しかしこの作品では、歌い手の位置で音楽を体験してもらいたい。歌い手一人一人は、それぞれの位置からのみ体験できる音の重なりを聴きながら歌っている。観客は展示空間全体を自由に移動することで、各歌い手の声と密接に繋がることのできる。それは音楽の体験というものが聴く位置によって変化するものであることを明らかにする。

私はまた、音がどのように物理的に彫刻的空間を構築するのか、そして観客がこの物理的かつ仮想的な空間をどう動き回るのかに興味がある。トマス タリスの作品にもともと備わっている彫刻的な構造を実感



# HARA MUSEUM ARC

できるようスピーカーを部屋の周囲に楕円形に配した。観客は、こちらの合唱団からあちらの合唱団へと場所を移動して音を聴くこともできれば、前後に飛び跳ねたり呼応したりする音を聴くこともできる。そして40人全員の歌声が重なる時、音の波が身体を覆うような圧倒的な感覚を味わうことができるだろう。

## ジャネット カーディフ (Janet Cardiff)

ジャネット カーディフ (1957-) はカナダのブリティッシュ コロンビアにある自然豊かな街を拠点に活動している。1999 年にはカーネギー インターナショナル (ピッツバーグ) に出品。2001 年にはジョージ ビュレス ミラーとのコラボレーションでカナダ館代表としてヴェニス ビエンナーレに参加し特別賞を受賞した。以後もミラーと共同で、音響、メディア技術を駆使した独創的なインスタレーションを手掛け、世界各地の美術館で展覧会を開催している。日本での人気も高く、横浜トリエンナーレ 2005、あいちトリエンナーレ 2013 などの国際展への参加、銀座メゾンエルメス フォーラムでの「40 声のモテット」展示 (2009 年) の他、金沢 21 世紀美術館 (2017 年) などで展覧会を開催。ベネッセアートサイト直島の常設作品「ストーム・ハウス」も人気を博した (2010-2021 年)。

作家公式ウェブサイト: <https://cardiffmiller.com>



【図 2】 ジャネット カーディフ (トゥールガウ州立美術館の展示にて) 2002 年  
Photo by Stephan Rohner.  
Courtesy of the artist and Luhring Augustine, New York /  
Fraenkel Gallery, San Francisco / Gallery Koyanagi.

## ◆主な出品予定「原美術館コレクション」作品

ギャラリーA (第2期:5月16日-7月6日):李禹煥「風と共に」、山本糾「落下する水」シリーズなど

ギャラリーB、C:ソフィ カル「限局性激痛」など

特別展示室観海庵:戸谷成雄「地霊」、宮脇愛子「うつろひ」など

通年展示:草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」、東芋「真夜中の海」、奈良美智「My Drawing Room」など

屋外作品:アンディ ウォーホル「キャンベルズ トマト スープ」、オラファー エリアソン「Sunspace for Shibukawa」、ジャン=ミシェル オトニエル「Kokoro」、鈴木康広「日本列島のベンチ」など

## ソフィ カル 「限局性激痛」 1999 年

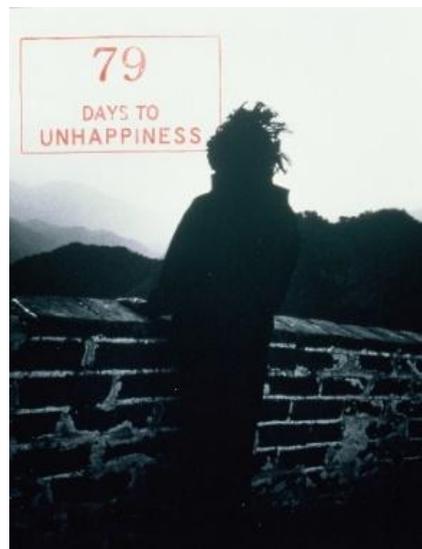
展示室:ギャラリーB、C 展示期間:2025年3月15日(土)-5月11日(日)、5月16日(金)-7月6日(日)

日本での3ヵ月は“人生最悪の日“へのカウントダウンだった——

日本滞在が契機となって誕生した作品「限局性激痛」は、日本で最初に発表したいという作家の希望を受けて原美術館(東京・品川。2021年閉館)で1999年に世界初公開。原美術館での展覧会のためにまず日本語版が制作され、その後フランス語や英語版が世界各国で発表されました。

「限局性激痛」とは、身体部位を襲う限局性(狭い範囲)の鋭い痛みや苦しみを意味する医学用語で、本作はカル自身の失恋体験による痛みとその治癒を写真と文章などで作品化したものです。人生最悪の日までの出来事を最愛の人への手紙や写真で綴った第一部と、自分の不幸を他人に語り、代わりに相手の最も辛い経験を聞くことで自身の心の傷を少しずつ相対化していく様子を写真と刺繍とで綴った第二部とで構成されています。

自身の人生をさらけ出し、他人の人生に向き合うカル制作に多くの鑑賞者が心を打たれる一方で、カル作品には常に曖昧さが漂い、全てを素直に信じることの危うさも問題にしています。



【図 3】



# HARA MUSEUM ARC

## ◆広報用図版

ご希望の図版の番号をご指定の上、お申し付けください。掲載時のトリミングや文字載せはご遠慮ください。後述のクレジットを必ずご記載くださいますようお願いいたします。

ソフィ カル「限局性激痛」(図 3、4、5)、草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」(図 8)の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。また、いずれの画像も本リリースからの転載は不可といたします。



【図 4】



【図 5】



【図 6】



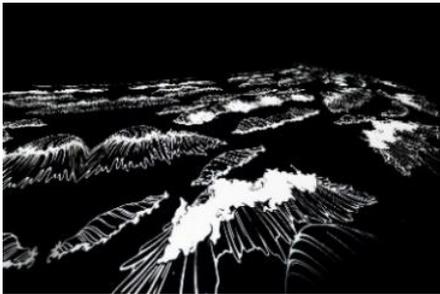
【図 7】



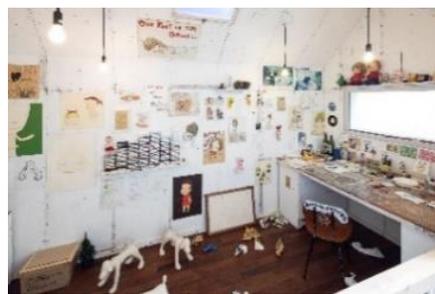
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

【図 1】 ジャネット カーディフ「40 声のモテット」 2001 年 聖ヨハネ教会(オーストリア、フェルトキルヒ)での展示風景 2005 年 Photo by Markus Tretter. Courtesy of the artist and Luhring Augustine, New York / Fraenkel Gallery, San Francisco / Gallery Koyanagi ©Janet Cardiff

【図 2】 ジャネット カーディフ(トウルガウ州立美術館の展示にて)2002 年 Photo by Stephan Rohner. Courtesy of the artist and Luhring Augustine, New York / Fraenkel Gallery, San Francisco / Gallery Koyanagi ©Janet Cardiff

【図 3】【図 4】【図 5】 ソフィ カル「限局性激痛」 1999 年 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3745

【図 6】 「ソフィ カルー限局性激痛 原美術館コレクションより」(2019年)展展示風景 ©Sophie Calle 撮影:木暮伸三

【図 7】 山本紉「落下する水 裏見の滝」1988 年 ゼラチンシルバープリント 195.0 x 107.5 cm ©Tadasu Yamamoto

【図 8】 李禹煥「風と共に」1990 年 カンヴァスに油彩、岩絵具 291 x 218 cm ©Lee Ufan

【図 9】 草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」1991/1992 年 ©YAYOI KUSAMA 撮影:木暮伸也

【図 10】 東芋「真夜中の海」2006/2008 年 ビデオインスタレーション ©Tabaimo 撮影:木暮伸也

【図 11】 奈良美智「My Drawing Room」2004/2021 年 312.0 x 200.5 x 448.0 cm ©Yoshitomo Nara 撮影:木暮伸也

【図 12】 ジャン=ミシェル オトニエル「Kokoro」2009 年 ©Jean-Michel Othoniel 撮影:木暮伸也



# HARA MUSEUM ARC

## ◆展覧会要項

**展覧会名** 「この、原美術館 ARC という時間芸術」

**特別企画** 「ジャネット カーディフ:40 声のモテット」 \*期間限定:3月15日—5月11日

**会期** 第1期:3月15日(土)—5月11日(日) 第2期:5月16日(金)—7月6日(日)

**主催・会場** 原美術館 ARC

**協賛** エルメスジャポン株式会社

**開館時間** 9:30 am—4:30 pm(入館は 4:00 pm まで)

**休館日** 木曜日(3/20、5/1 は開館)、5月12日—5月15日

**入館料** 一般 1,800 円、70 歳以上 1,500 円、大高生 1,000 円、小中生 800 円

\*3/15~5/11 は群馬県内の小中高生無料、5/16 以降の学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

\*前売りオンラインチケット(日にち指定) [https://e-tix.jp/haramuseum\\_arc/](https://e-tix.jp/haramuseum_arc/)

\*原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料

**住所** 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1 Tel: 0279-24-6585

E-mail: [arc@haramuseum.or.jp](mailto:arc@haramuseum.or.jp) ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

X: @haramuseum\_arc Instagram: @haramuseumarc

\*ジャネット カーディフの「40 部のモテット」は、もとはフィールド アート プロジェクトにより、アーツ カウンシル イン グランド、カナダ ハウス、ソールズベリー フェスティバル、ソールズベリー大聖堂合唱団、バルチック ゲーツヘッド、ニュー アートギャラリー ウォルソル、ナウ フェスティバル ノッティンガムと共同で制作された作品です。

**展覧会「この、原美術館 ARC という時間芸術」 特別企画「ジャネット カーディフ:40 声のモテット」**

**お問合せ先:**学芸部 坪内(本展担当学芸員)、山川、岩村

E-mail: [press@haramuseum.or.jp](mailto:press@haramuseum.or.jp) Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449



# HARA MUSEUM ARC

## ◆原美術館 ARC について

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館（東京・品川、1979-2021）と別館ハラミュージアム アーク（群馬・渋川、1988-）の活動を集約し、2021 年 4 月に始動しました。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時より収集した 1950 年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20 世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎（1842-1933）が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新（1931-2022）が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリー A と前庭に向かい両翼を広げるギャラリー B、C は、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺（園城寺）の旧日光院客殿の書院造に想を得た特別展示室「観海庵（かんかいあん）」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭ではアンディ ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、毎月1回の庫内ガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージしてスタッフが考案した「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介しますなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりです。

原美術館 ARC では、メンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。当館の活動をサポートしながら、様々な角度からアート体験するプログラムにぜひご参加ください。

<https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>



原美術館 ARC 外観



特別展示室 観海庵 内観



開架式収蔵庫



カフェ ダール メニュー例



オリジナルグッズ



開架式収蔵庫ツアーの様子



# HARA MUSEUM ARC

## ■電車・バスで



## ■高速バスで



※2024 年 12 月現在。ご利用の際は運行会社の時刻表をお確かめください。

## ◆交通案内

### ■電車利用の場合

東京駅・上野駅から JR「高崎駅」にて、上越／吾妻線乗り換え、「渋川駅」より関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き(3 番のりば)にて約 15 分、「グリーン牧場前」下車、徒歩約 7 分。または「渋川駅」よりタクシーで約 10 分。

【JR 乗換案内例】 \*2024 年 12 月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線(平日・土休日)

<はくたか 553 号>

東京駅 7:52 発→高崎駅 8:42 着 / 8:53 発 [吾妻線 大前行] → 渋川駅 9:19 着 / 9:25 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 9:40 着

<とき 317 号>

東京駅 10:41 発→高崎駅 11:32 着 / 11:44 発 [吾妻線 長野原草津口行] → 渋川駅 12:08 着 / 12:14 発 関越交通バス [伊香保温泉行] → グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津・四万」

<草津・四万 31 号> \*土休日のみ運行

上野駅 9:00 発 - 渋川駅 10:39 着 / 10:55 発 関越交通バス [伊香保温泉行] → グリーン牧場前 11:10 着

<草津・四万 1 号>

上野駅 10:00 発 - 渋川駅 11:36 着 / 11:42 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] → グリーン牧場前 11:53 着



# HARA MUSEUM ARC

<草津・四万3号>

上野駅 12:10 発ー渋川駅 13:50 着 / 13:55 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 14:06 着

## ■高速バス利用の場合

関越交通バス \*詳細は 関越交通バスのサイトでご確認ください。 <https://kan-etsu.net>

- ・伊香保四万温泉号 羽田線(東京駅、川越駅経由) \*伊香保グリーン牧場下車
- ・吉祥寺ー草津温泉線 \*渋川駅にて路線バスに乗り換え、グリーン牧場前下車

JRバス \*詳細は JRバス関東のサイトでご確認ください。 <http://time.jrbuskanto.co.jp/bk03010.html>

- ・上州ゆめぐり号 東京駅または新宿駅⇄渋川駅・伊香保・草津温泉 \*渋川駅にて路線バスに乗り換え、グリーン牧場前下車

## ■お車の場合

関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8 km、約 15 分。(無料駐車場 46 台、大型バス駐車場 2 台)

## ■ヘリコプターの場合

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約 35 分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシー約 10 分

\*詳細は各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。

